

1 【音楽科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

○ワークシートや個別に演奏を聴くなどの個別支援を行い、基礎基本の定着が見られるようになった。
 △楽譜を読んだり演奏したりする際、今までの経験を基にして活動するなど既習の内容を活かしきれない。
 △コロナ対策をしながらより安全に児童が音楽活動を行えるようにする必要がある。

2 学習状況の分析と課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習状況の分析	低学年は、音楽の特徴に気付き、音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付けている。中・高学年は、ほとんどの児童が音楽の仕組みに気付いたり理解したりして表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	低学年は、音楽の特徴を感じ取って音楽の表現を考えて工夫したり、楽しさを感じながら聴いたり演奏したりすることができきる。また、中・高学年は、音楽の表現に対する思いや意図をもったり音色や奏法にこだわったりして演奏する姿が見られる。	低学年は、友達と共に楽しんで音楽活動をしようとする姿が見られる。中・高学年は、進んで音楽活動に取り組んだり友達と演奏することを楽しんだりしながら意欲的に演奏している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 「鑑賞」の学習では、音楽を聴いて感じ取ったことを共通事項を手掛かりにして音楽の言葉で表現できるよう低学年から計画的に指導することが必要である。 目標を達成するために自分の経験を生かしたり、学んだことを次に生かしたりするためには、教師の助言や個別の手立てが必要である。 音楽的な技能の習得は、個人差が見られるため、児童が苦手意識をもたずに意欲的に練習に取り組めるよう教材や授業の進め方に工夫が必要である。 		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを旨とする。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感情を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>○主体的に音楽活動を行えるようにするために演奏前に、どんなふうに演奏したいのか自分のめあてをもち、表現できるよう指導する。</p> <p>○どんなふうに演奏したいのか思いをもてるように既習の内容を生かした授業を行う。</p> <p>○対話的で深い学びになるように友達の演奏を聴き合ったり、めあてが達成できているかを演奏して確かめたりする活動を取り入れる。</p>
学年段階別改善策	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> リズムを覚えたり階名唱をしたりすることを楽しくできる「音楽遊び」を取り入れた学習を行う。木琴やリズム遊びなど、基礎基本の定着を図る。(知識及び技能) 輪唱やふしを追いかける曲、身体表現、リズム遊びなど、多様な楽曲を取り入れ、曲想を感じ取って楽しく伸び伸びと表現できるようにする。(思考力、判断力、表現力等) 身体表現やリズム遊びを取り入れて、より多くの学習体験ができるようにする。声や音を合わせて演奏する楽しさを味わえるようにする。(学びに向かう力、人間性等)
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 旋律を味わって表現できるような楽曲を多く取り入れて、音色や強弱など意図をもって音楽表現できるようにする。(知識及び技能) 鑑賞と音楽表現を結び付けて、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えられるようにする。(思考力、判断力、表現力等) 楽曲を通して、音の重なりを味わいながら意欲的に音楽活動を行っていきけるようにする。(学びに向かう力、人間性等)
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 今までの経験を基に楽曲を分析して、表現を工夫して音楽表現できるようにする。(知識及び技能) 鑑賞と音楽表現を結び付けて、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを、共通事項を手掛かりに言語表現できるようにする。(思考力、判断力、表現力等) 楽曲を通して、自分が目指す音楽を実現するために意欲的に音楽活動を深めていきけるようにする。(学びに向かう力、人間性等)